ゆうことみゆきの
なるほど
アイヌ文化エッセイ

ソンコ de ソンコ

Vol.155

アイヌ文化のことをもっともっと話したい!
本田優子と村木美幸の二人が、その魅力を交代で
執筆するソンコ(=お便り)形式のエッセイです。

今月のテーマ

武四郎まつり

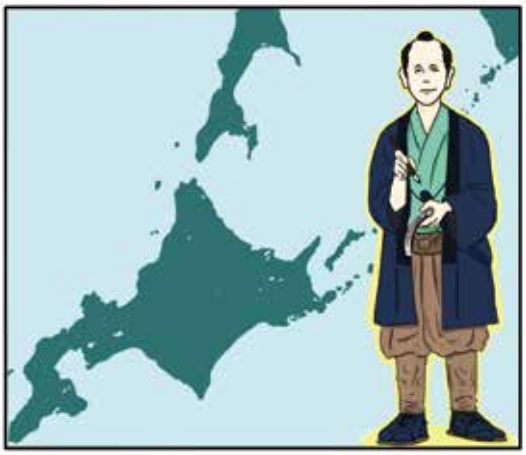
本田優子(札幌大学教授)

「武四郎まつり」をご存知でしょうか?三重県松阪市の松浦武四郎記念館で、毎年二月の第四日曜日に開催されているお祭りです。今年で第三十回を迎え、数千人が訪れる大きなイベントになっています。

でも、そもそも松浦武四郎って誰?と思われる方もいらっしゃるかもしれませんね。武四郎さん(…呼び捨てにできない私)は郷土の四男として生まれ、お伊勢参りの人々が家の前の伊勢街道を行き交う姿を見て育ちました。一六歳で江戸に出奔、一七歳から本格的に諸国を回りました。長崎滞在中に得た情報で、蝦夷地が国防上の危機にさらされていると考え、一個人として三回、幕府のお雇い役人として三回、計六回蝦夷地を踏査し、その記録帳は百五十一冊にものぼります。多くのアイヌの人々に案内してもらいながら山野をめぐる中で、武四郎さんはアイヌ語を習得し、アイヌ民族の考え方や暮らしぶりを深く理解するようになりました。

『近世蝦夷人物誌』では、場所請負制度のもとで過酷な労働を強いられ、アイヌ社会が疲弊していく状況を克明に描き、松前藩を告発しました。時代の制約を受けつつも、武四郎さんのアイヌ民族に対する人道的観点が、封建的な当時の日本社会において傑出していたことは間違いありません。

当代一の「蝦夷通」として知られるようになった武四郎さんは、明治政府から蝦夷地に変わる名称の考案を依頼され、一八六九(明治二)年、「北加伊道」を提案しました。カイは「この大地に住む人」という意味とのことですが、明治政府は漢字を変えて北海道と定めました。二〇一八年の北海道命名一五〇年記念事業は、「北海道の名付け親」としての武四郎さんを掲げることでアイヌ民族からの支持も得て、おおいに盛り上がりました。



イラスト/山丸ケニ

二〇二二年にリニューアルオープンした松浦武四郎記念館は、わかりやすい展示とともに、武四郎さんが人生の最後に暮らした「二畳敷き」の書斎も忠実に復元されており、見応えがあります。

実は私が代表を務める札幌大学ウレシパクラブは、学生たちによる舞踊披露やアイヌ文化交流のため、武四郎まつりに毎年ご招待いただいています。皆さま、ぜひ一度お越しください。

次回のテーマは「エトピリカ」
村木美幸(アイヌ民族文化財団副理事長)が
担当します。

ウポポイ
NATIONAL AINU MUSEUM and PARK
民族共生象徴空間
JR白老駅から徒歩約10分

ウポポイPRキャラクター
「トゥレッポん」

■本田優子(ほんだゆうこ):金沢市生まれ。札幌大学教授。北大卒業後11年間平取町二風谷に住み、アイヌ語講師を務める。
■村木美幸(むらきみゆき):白老町生まれ。アイヌ民族文化財団副理事長。先住民族アイヌの一員として文化継承活動に努める。
■山丸ケニ(やまるけに):白老町生まれ。アイヌ民族文化財団職員。ウポポイでアイヌ語体験プログラムを担当する。

イランカラプテ
「こんにちは」からはじめよう。